

この町で素敵な「^{ミライ}未来」を描く方をご紹介します。



子どもたちに体験の場を提供し、
地域へ興味を持つ心を育みたい。

鮎貝地区集落支援員

佐藤 さとう
真光 さん（鮎貝在住）



今回ご紹介するのは、鮎貝地区
で集落支援員を務める佐藤さん。

佐藤さんは、生まれも育ちも鮎貝地区。思い出がたくさん詰まったこの土地で、何か新しいことはできないか仲間と話していたタイミングで地域からの声かけがあり、昨年の4月より集落支援員としての活動を始めました。佐藤さんは、これまでに「子どもたちの居場所づくり」に着目して、放課後の活動拠点である「放課後みちくさ学級」や、何をしてどう過ごすかをすべて子どもたちだけで考えながら計画し活動する「何もしない合宿」などを手掛けてきました。

「地域づくりにおいて、最も重要なことが『人づくり』であると思うんです。その中でも、将来地域の担い手となる今の子どもたちへの『教育』を重要視していて、家庭や学校とは異なる『地域の居場所』が、子どもたちにさまざまな経験を与え地元への関心を育むものだという思いで、子どもたちと向き合い取り組んでいます」と話

子どもたちに学びの場を
たくさん提供したい！



す佐藤さん。

人との繋がりが希薄になりつつあり、同時に子どもたちが地元に関心を持たなくなることが懸念される現代。「地域の人と子どもたちが、気軽に関わりを持てる雰囲気をつくる」をテーマに、地域をコミュニティセンターで築いていきたいと考えています。地域のルールなどを子どもたちが学び、そして、子どもたちの価値観を大人たちが理解する。そのきっかけづくりとして、まずは地域の良さを自分の行動から子どもたちに伝えるために、いろんなことに挑戦していきたいです」と熱い思いを語ってくれました。